

# 建通新聞

東京

## 賀詞交歓会

日測協

### 早期復興へ 準備急ぐ

日本測量協会(日測協、清水英範会長)は9日、東京都内で新年賀詞交歓会を開いた。コロナ禍を経て4年ぶりの新年会となった。能登半島地震の犠牲者に黙とうした上で、清水会長が「やるせない気持ちでいっぱいなのは正月だった。協会としても復旧を支援する活動を実施していく」と述べ、被災地の早期復興を祈念し



た。

清水会長「写真」は「地震ではインフラの損壊や建築物の倒壊、火災、津波による浸水など大きな被害が広域にわたって多数発生した」と振り返り、「こうした中、国土地理院は電子基準点のデータ解析など発災直後から大きな仕事をされた。東京大学地震研究所の研究発表も含め、それらの

速報値が新聞やテレビで大きく取り上げられている」と関係機関の取り組みをたたえた。

その上で「今後、地盤が隆起し使えなくなった漁港や防波堤の再建が必要になる。その際、測量の専門家が大きく活躍しなければならぬ。協会では、市民や関係団体と連携・協力し、被災地の早期復興に貢献できるよう準備を急ぐ」と述べた。

その後、出席者全員で献杯し、思い思いに交流を深めた。